

8月10日(火曜日)
ユーロ/円
ユーロ/ドル
豪ドル/円

日・米金融政策が焦点

9日(月)の主な推移



期間：9日(月)午前7時～10日(火)午前6時
※チャートは30分足 日本時間にて表示
出所：外為どっとコム

- ① 野田財務大臣が「市場の動きに細心の注意」・「為替の過度の変動や無秩序な動きは経済・金融に悪影響」などと発言した事や後場に入り日経平均株価が下げ幅を縮めた事からクロス円は堅調に推移した。その後欧州株が上昇して始まった事を受けて、ユーロや豪ドルが上昇すると、ユーロ/ドルは一時1.33ドル台に乗せた。また、ユーロ/円は113.91円、豪ドル/円は78.80円の高値を付けた。
- ② 先週末の米雇用統計を受けてドル売りを進めた向きが、明日10日の米連邦公開市場委員会(FOMC)を前にドルを買い戻す動きが先行するとユーロ/ドルはジリ安の展開となり、1.3215ドルまで下落した。ユーロ/円はユーロ/ドルの下落に連れる形で113.35円まで下落した。
- ③ NYダウ平均株価が一時10700ドル台に乗せるなど堅調に推移すると、ユーロ/円や豪ドル/円はやや上昇したものの、明日のFOMCを控えてリスクを積極的に取る機運は高まらず、戻りは限定的であった。

ユーロ/ドル、ユーロ/円の要因

- ・リスクを取ることに積極的になる動きから、円売り、高金利通貨買いの流れ(ユーロ/円上昇要因)
- ・米低金利政策長期化観測に伴う米長期金利の低下(ユーロ/ドル上昇要因)
- ・南欧諸国のソブリン・リスクの緩和(ユーロ上昇要因)
- ・米景気回復に伴う米長期金利の上昇(ユーロ/ドル下落要因)
- ・リスクを取ることに消極的になる動きから、円買い戻しの流れ(ユーロ/円下落要因)
- ・南欧諸国のソブリン・リスク(ユーロ下落要因)

豪ドル/円の要因

- ・リスクを取ることに積極的になる動きから高金利通貨買いの流れ(豪ドル/円上昇要因)
- ・豪利上げ観測に伴う日豪金利差の拡大(豪ドル/円上昇要因)
- ・株価、資源価格の上昇(豪ドル/円上昇要因)
- ・日銀による追加金融緩和観測(豪ドル/円上昇要因)
- ・豪州中銀による利上げ観測の後退(豪ドル下落要因)
- ・株価、資源価格の下落(豪ドル下落要因)
- ・リスクを取ることに消極的になる動きから、円買い戻しの流れ(豪ドル下落要因)

本日の見通し

本日の予想レンジ

ユーロ/ドル: 1.3130-1.3350ドル
ユーロ/円: 112.20-114.50円

本日の予想レンジ

豪ドル/円: 77.20-79.70円

本日は日・米で行われる金融政策の発表が焦点となる。日銀については一部で、円高デフレ阻止に向けて追加金融緩和を発表するとの憶測も出ており、結果が注目される。追加緩和が発表されれば、株高・円安材料となりそうだ。一方、米連邦公開市場委員会(FOMC)では、追加緩和期待から既に、NY株高・ドル安が進んでおり、追加緩和が一段のドル安につながるかどうかは不透明だ。また、FOMCでは米景気見通しを後退させると見られており、追加緩和なしの景気見通し後退は株価に悪影響が出る可能性もある。(神田)

日米の金融政策発表を受けた株価動向が豪ドル/円相場を左右する事になりそうだ。現状日銀の追加緩和を予想する声は少なく、追加緩和があれば、日経平均株価の上昇が見込まれ、豪ドルの上昇要因となるだろう。一方、米国ではFOMCでの追加緩和を既に織り込む形で株価が上昇しており、事前報道のように、住宅ローン担保証券(MBS)の満期資金再投資などの小規模な措置が取られるようだとNY株式市場は失望売りを浴びる可能性もある。また、日銀が追加緩和せず、FOMCが追加緩和という事になれば、ドル安・円高が進むと考えられ、豪ドル/円の下落要因となる可能性がある。(神田)

本日の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 日本時間での表示

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表	市場予想
8/10(火)	未定	◎	(日) 日銀金融政策決定会合(9日～発表)	0.10%	0.10%
	15:30	◎	(日) 白川日銀総裁会見	—	—
	23:00		(米) 6月卸売在庫 [前月比]	+0.5%	+0.4%
	26:00		(米) 3年債入札(340億ドル)	—	—
	27:15	◎	(米) FOMC 政策金利発表	0.00 ~ 0.25%	0.00 ~ 0.25%

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。